

新潟県立看護大学図書館 Library Newsletter

No.39
2016.7

C O N T E N T S

図書館長就任のご挨拶

学生essay 私の図書館活用法

書評 『世界がもし100人の村だったら』

『あなたがもし残酷な100人の村の村人だと知ったら』

館内案内

前図書館長退任のご挨拶

災害看護・地震関係資料コーナーをご活用ください

寄贈図書 / 人事往来

図書館長就任のご挨拶

生物・医学領域 教授 境原 三津夫

この4月より図書館長を務めることになった生物・医学領域の境原三津夫です。本学図書館のこれまでの歩みを引き継ぎ、教育支援、研究支援、大学が保有する知的財産の保存および発信を使命とする大学図書館として、その機能の充実に尽力したいと考えています。

本学図書館は、新潟県立看護短期大学の図書館に始まり、大学の設立とともに大学図書館として位置付けられました。そして、近時の情報化社会の進展に合わせ少しずつその姿を変え、今日に至っています。本学図書館の紹介を兼ね、その活動について現状と今後の展望を述べたいと思います。

本学図書館は看護系の専門図書を中心に蔵書を集め、また看護学に関する資料の収集・保存を行っており、地域の看護学研究の拠点としての役割を果たしています。近郊の病院に勤務している看護師さんが、日々の看護実践に関する疑問を解決するため、勤務終了後に本学の図書館を訪れています。疑問点の解決はそのまま患者さんに還元されるため、看護系専門図書館としての責任は重大です。近時の医学の進歩は目覚ましく、医学の進歩にともない看護学も変化しており、時代に遅れないよう蔵書や資料を整備し、地域の期待に応えていきたいと考えています。

また、研究者が教育・研究に必要な資料・文献を検索・収集することをサポートするレファレンス・サービスも本学図書館の重要な仕事です。本学では、資料や文献を検索するためのデータベースとして、国内の医学文献を集めた「医学中央雑誌Web」、医学・看護系論文の本文を提供している「メディカルオンライン」、世界の看護関係の文献検索に用いられる「CINAHL」、人文・社会科学系文献が必要な場合に役立つ「CiNii Articles」などを備えています。「メディカルオンライン」の本文ダウンロードを除き、教職員や学生は学内の端末から、学外者は図書館内の端末からこれらのデータベースにアクセスすることができます。検索方法がわからない場合は、図書館職員が相談ののってくれます。教育・研究の活性化を図るため、利用状況にもとづきレファレンス・サービスの充実に努めています。

さらに、本学における教育・研究の成果を社会に向けて発

信し、将来に向けて保存するリポジトリ機能も担っています。本学のリポジトリは、平成27年12月1日より、国立情報学研究所が提供するリポジトリサービス(JAIRO Cloud)に移行しました。それまでは独自のシステムにより本学の情報を発信してきましたが、大規模なシステムを共用する形のJAIRO Cloudに移行したことで、より広い研究資源の活用が可能になりました。現在は、紀要、学術研究論文、看護研究交流センター報告書、自己点検評価報告書などを登録し、学外に積極的に情報を発信しています。本学のリポジトリは「にこナース(NICONURS: Niigata College of Nursing Repository)」の愛称で親しまれており、さらなるリポジトリの充実に目指し、大学をあげて取り組んでいます。

もうひとつ、本学のような小規模な図書館にも大きな変革の波が押し寄せています。近年、今までの知識注入型の講義形式の学習方法に加え、教員と学生、あるいは学生同士がディスカッションしながら、課題を見出し解決策を模索するアクティブ・ラーニングという学習方法が取り入れられるようになってきました。本学では、以前からこのような教育方法が取り入れられていますが、グループで学習するスペースの確保が困難であり、学生は食堂やホールを自主学習の場として使用しています。アクティブ・ラーニングの重要性が増すにつれ、学習の場を図書館に確保し、図書館がもつアーカイブ機能やレファレンス機能を活用しながら学習するラーニング・コモンズの整備が求められるようになってきました。種々の制約はありますが、本学の看護教育の質を高めるためにも、ラーニング・コモンズを早期に実現したいと考えています。

本学の図書館は、小規模でありながら時代の流れに遅れることなく成長してきました。図書館の管理・運営は図書委員会と図書館職員が中心となって行っていますが、利用するみなさんあっての図書館です。これからも大いに利用し、本学の図書館を育てていただけたら幸いです。



学生essay～私の図書館活用法～



4年生

私は図書館の雰囲気が好きで、1、2年生のころからテスト勉強やレポートの作成のために利用していました。3年生になると演習、実習が本格化してくることから図書館の参考書や医学書が欠かせない存在となっていました。

4年生になると専門ゼミナールでの研究が開始し、図書館のPCを利用して先行研究の文献検索をする機会が非常に増えました。研究に向けての講義のなかでは、図書館職員の方から文献検索の方法について時間をかけてご説明いただき、キーワードが文献検索を行う上で非常に重要なことを学び現在に役立てています。また、学内所蔵がない文献についても、職員の方に依頼することで取り寄せてもらうことができ研究を進めていくうえで大きな助けとなっています。就職試験、国家試験に向けた勉強場所としても図書館にはとてもお世話になっています。静かで解放感があり周りの学生も机に向かっていく環境なので、「自分も頑張らなくては」と奮い立たせることができます。勉強の最中に

理解できないことがあれば専門の書籍がすぐそばにあるので疑問もその場で解決できることも多いです。目的の本を探しているとき、気になる書籍を見つけてしまうとつい読みふけてしまうこともしばしばあります。家だとなかなか集中できない私ですが図書館では集中して机と向き合うことができるので今後たくさんお世話になると思います。

少し疲れたとき図書館の二階からの景色を眺めることが私の気分転換の一つでもあります。春は関川沿いの桜が咲き誇っている姿、夏には生い茂った木々が風に揺れる姿、秋には地元の高校性がマラソンをしている姿、冬にはしんと雪が降り続く姿、四季に合わせいろいろな景色を眺めることができ、その景色を見るとまた頑張ろうという思いが湧き出ます。

職員の方たちもとても親切でフレンドリーです。勉強の合間に少しお喋りすることも実は密かな楽しみの一つになっています。図書館は勉強したり調べ物をしたりするのにとても適した空間です。下級生の皆さんや地域の皆さんにもどんどん活用していただけたらと思っています。



4年生

私は3年生になってから、図書館をよく利用するようになりました。それまでは、課題やレポートに必要な本や資料を探すため、時々というより数カ月に1回のペースで図書館を利用する程度で、あまり縁のない場所だと思っていました。ですが、学年が上がるにつれて、特に3年生の春からは、急にアセスメントや看護計画を立てる演習や課題、レポートが多くなって、本や資料を必要とする機会も多くなりました。最初は図書館で借りていましたが、せっかく借りた本を家に帰って読んだら、自分に必要な情報が書かれておらず、無駄なことをしたと後悔したり、また明日借りて来なければならず、結局、課題やレポートが前に進まないことが多くありました。皆さんはそんな経験ありませんか？そこで考えたのが、図書館で勉強することです。図書館で勉強することで、そんな悩みは一気に解決できました。

適か、図書館の良いところについて語りしたいと思います。私だけかもしれないですが、図書館の匂いが何となく好きです。深呼吸してしまいます。よく食堂で勉強している人を見かけますが、私は断然、図書館派です。また、図書館ではペットボトルのように蓋が付いたものであれば、飲み物を持ち込んで、飲むこともできます。ですが、お菓子も食べながら勉強したいと思う人は食堂派かもしれませんね。勉強しながらのお菓子って美味しいし、どんどん食べてしまうので、そんなときに図書館で勉強を始めたら、ダイエットになるかもしれません。さらに、図書館は温度管理が丁度良いと感じます。一年中快適に勉強できます。食堂やレセプション・ホールは冬がとても寒くて、勉強に集中できません。家で勉強するより、図書館にいる時間が多ければ、光熱費の節約にもなります。最後は、やっぱり、静かな環境で勉強できる場所です。私はすぐ友達とお喋りしてしまうし、家ではテレビつけてしまうし、強制的に静かでないといけない図書館は最適の場所だと思っています。図書館は最高におすすめの空間です！！

ここからは別の視点で、図書館での勉強がどれだけ快

連載 書評

『世界がもし100人の村だったら』

池田香代子(再話), C.ダグラス・ラミス(対訳), マガジンハウス, 2001年

『あなたがもし残酷な100人の村の村人だと知ったら』

江上治 著, 経済界, 2015年

人間環境科学(英語) 教授 中村 義実

今から15年ほど前、『世界がもし100人の村だったら (If the world were a village of 100 people)』というコラムがインターネットを通して世界的に話題になりました。日本でも2001年、同名の翻訳書が出版されました。同タイトルのテレビ番組が何本か放映されたり、同書の続編が次々と刊行されたりしたので、このタイトル名が記憶に残っている方々も多いと思います。

その書の内容ですが、「世界には63億人の人がいます。もしそれを100人の村に縮めるとどうなるでしょう」という問いかけのあと、様々な事柄に関する数字が紹介されます。女性は?、有色人種は?、アジア人は?、キリスト教徒は?、という具合です。ちなみに左記の正解は、順に52、70、61、33(人)です。100人に縮めることで世界全体の構図が分かりやすく頭に整理されます。さらに本書は、「地球村」のとてつもない格差の現状をあからさまに描き出し、読者に衝撃を与えました。すべての富の59%を6人が

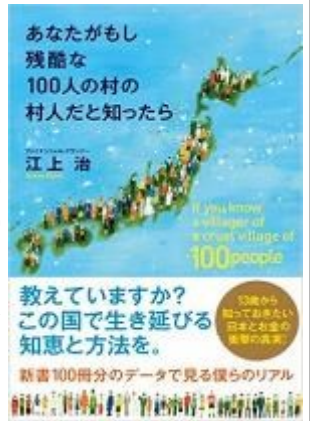
所有、すべてのエネルギーの80%を20人が使用しています。20人が栄養不足状態にあり、うち1人は死にかけています。自家用車を持っている人は7人、大学教育を受ける人はたった1人しかいません。私たちが考える「普通」が、世界の「普通」ではない、という事実を突きつけられます。出版後15年を経た今日に至っても、富裕層と貧困層の格差は、さらに拡大を続けている現状があります。

先日書店で、『あなたがもし残酷な100人の村の村人だと知ったら』という本が目にとまりました。てっきり、『世界がもし』と同趣旨の書と思いきや、その舞台は他ならぬ「日本村」でした。少子高齢化、人口減少等の問題を抱える日本は、私たちが想像する以上の苦境に置かれています。最近の25年間で、社会保障費が3倍に膨らみ、この村の借金は一人が1年に稼ぐ総額の2倍以上です。この借金のツケは、子供や20代の若者に回されていきます。数十年もすると、4人に1人が75歳以上の老人になります。老人が

老人の世話をする「老老介護」も今後増加の一途をたどります。この村では、現在41人が雇用されており、26人が正社員、15人が非正社員です。村人の9人が「ワーキングプア」(年収200万円以下)で、まったく貯金できない家が3分の1に及びます。この村では、子どもへの虐待が年々増加しており、生活苦で自殺する人も後を絶ちません。

著者の江上治氏(フィナンシャル・プランナー)は、かように「残酷な」日本の姿を描写する一方で、「では、どうすべきか」を第2部で力強く主張します。人生における「お金」のウェイトは、実は、さほど大きくないという主張に力点を置き、目前の小銭に囚われる「手段思考」ではなく、将来の生き方を考え抜いた「目的思考」の大切さを説きます。人脈を築けるコミュニケーション能力、モノを考える力を核とする「人間資本」、さらには、多くの人と多様な価値を交換し合い、互いに助け合い、高め合う「人間関係資本」が現状打開の鍵になると提言します。「自分の強みと弱みを知り、助け、助けられよ」という江上氏のメッセージは傾聴に値します。

両書が描き出す世界は、ともに、お金に支配された私たちの意識そのものが作り出した産物ではないでしょうか。お金は今や、江上氏曰く、「世界に君臨する神」のごとく、私たちの心を操っているのです。2様の「100人村」に込められたメッセージをより深く理解するために、まず一度、日本の外に出てみることをお勧めします。「世界村」には私たちの想像をはるかに超える貧困が随所に存在します。同時に、私たちの足元の暮らしを見つめて歩いていく地道さも忘れてはならないでしょう。目をそむけなくなるような悲惨は、実は、「日本村」にも溢れているのです。双方の現実を直視することは、私たちに、既存の価値観や今後の生き方を見つめ直すきっかけを与えてくれるでしょう。



請求記号 302.1 - E28
配架場所 2階 棚15右側



請求記号 304 - 132
配架場所 2階 棚15右側

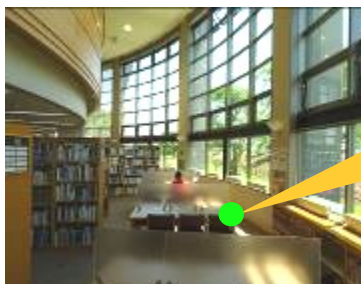
館内案内

1階

1階には保健・医療・福祉などの専門書のほか、一般雑誌・小説などが並ぶブラウジングコーナーがあります。勉強の息抜きに利用してみたいかがですか。



① ブラウジングコーナー



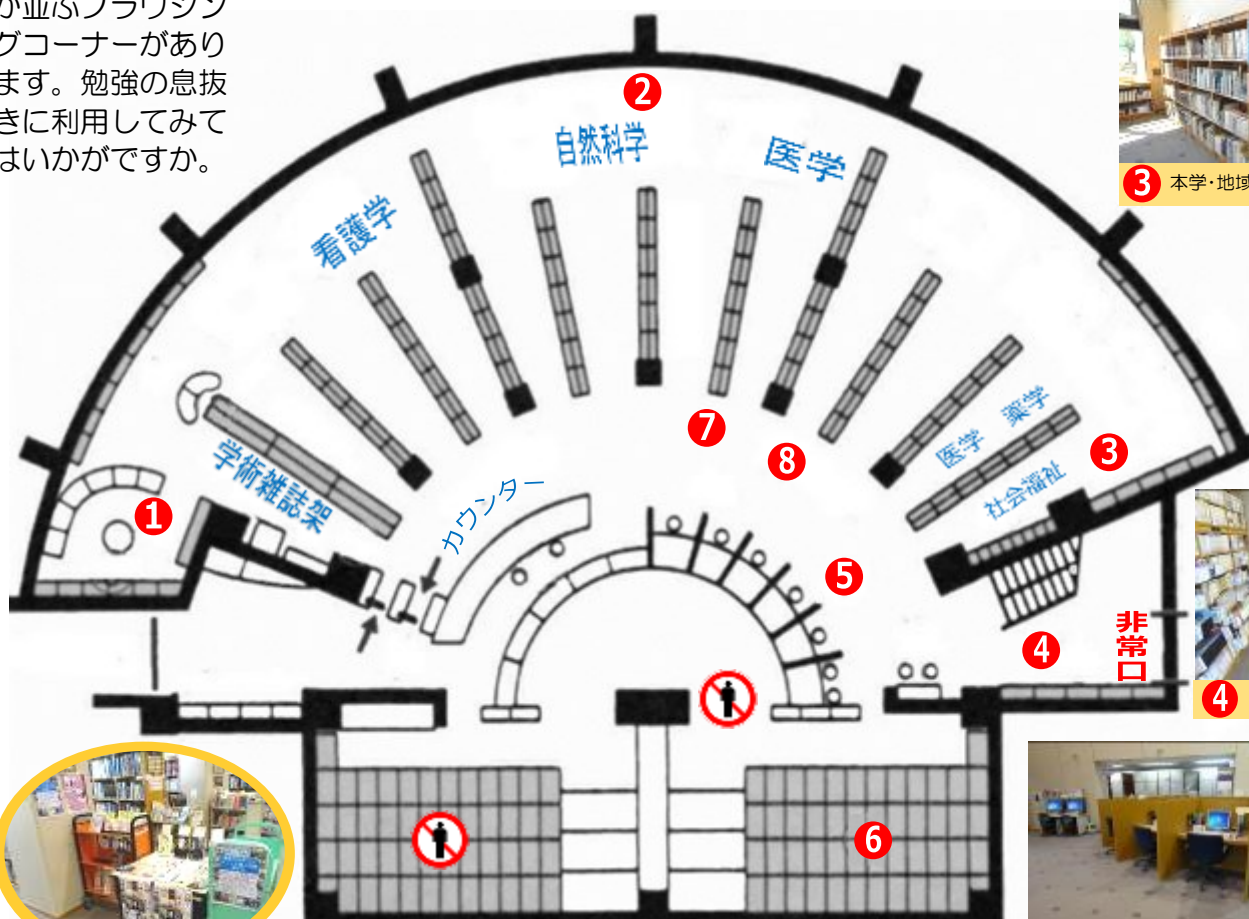
② 1階閲覧席



テーブル下の四隅にコンセントがあります。パソコン等も利用できます。



③ 本学・地域資料コーナー



④ 視聴覚資料コーナー



⑤ 利用者用端末



企画展示(展示期間あり)
・上越教育大学との蔵書交換展示会
・学生ブックハンティング展示 など
※上の写真は学生ブックハンティング展示



⑦ 1階風景



新着ワゴン
新着図書をご紹介!



図書委員会の先生が
選んだおすすめの一冊



⑧ シラバスワゴン
(シラバス掲載テキスト)



⑥ 移動式書架

図書・雑誌・新聞の
バックナンバーが並んでいます

2階



2階には心理学・文学・教育学などの一般教養書が並んでいます。

すべての席にコンセントが配置されているので、パソコンを使用することができます。

四季折々の景色を眺めながら、開放的な学習スペースを是非ご利用ください。

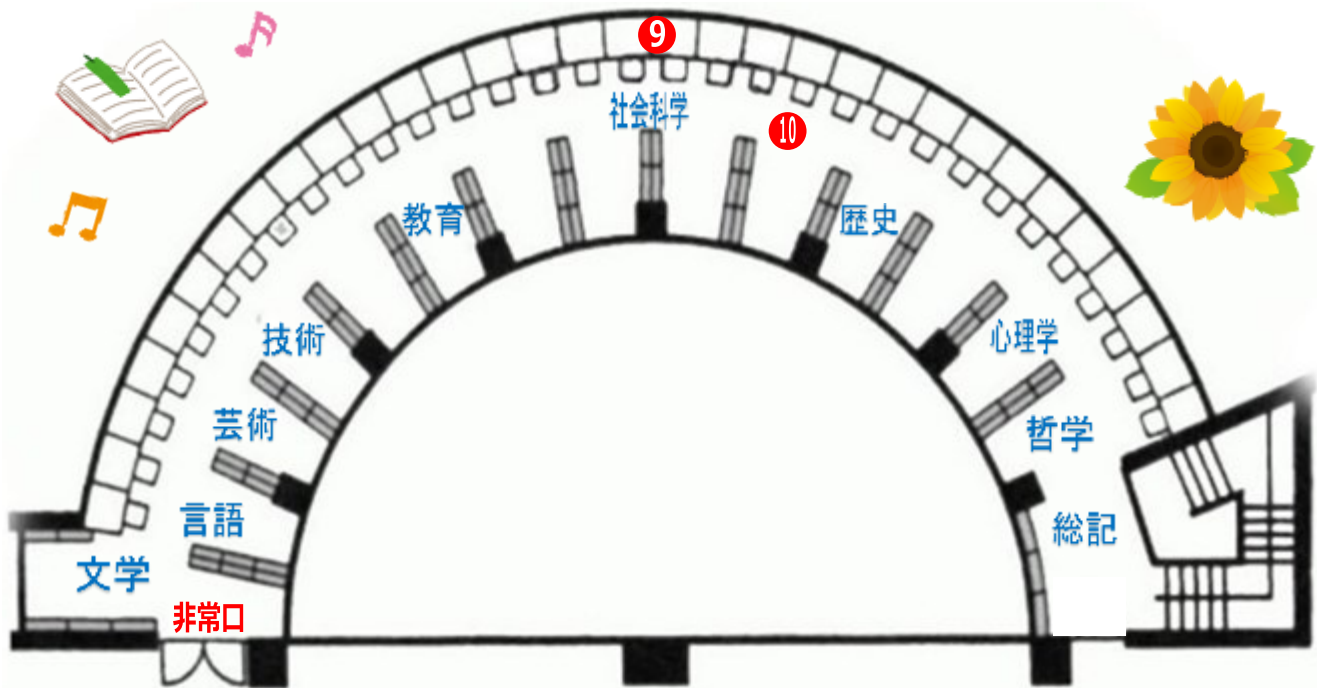


9

2階学習席



学習席からの初夏の景色。窓の外には南葉山や金谷山が望めます。天気がよければ妙高山を望めることも。



10

2階書架



大型本

書架左下におおむね29cm以上の大型本が配架されています。



皆さまのご利用
お待ちしております♪

前図書館長退任のご挨拶

看護大学図書館の歩み

名誉教授 関谷 伸一

ページをめくる音が聞こえる静けさ、漂う古書の匂い、「もう少し明かりを」と言いたくなるような照明。この空間に入ると、偉大な先人たちに見詰められているような錯覚と同時に、さあやるぞ、という気分が沸いてきます。これは言うまでもなく古典的な図書館の雰囲気のことです。平成18年から4年間、また平成25年から3年間の図書館長職を終えるにあたり、このような懐古趣味に乗じて本学図書館のいままでの歩みを簡単に振り返ってみたいと思います。

本学図書館は平成14年の開学と同時にオープンしましたが、最初の三年間は大学の前身である看護短期大学がまだ残っていたので、大学と短期大学の共用施設として利用されていました。4年制大学の開設ではありましたが増改築はできなかつたため、蔵書やサービス内容の充実を図ることに重点をおき、新しい図書を購入し、学術雑誌を増やしました。そのため大学開設からの4年間で一気に蔵書構成が豊かになりました。しかし、蔵書が増えると収容書架が不足し、結果的に閲覧スペースを削ってでも書架の増設をしなければならず、やむを得ず閲覧机を減らすこととなり、残念ながら近年の図書館のあり方に逆行するような状況となってしまいました。一方その頃すでに電子ジャーナルの普及も目覚ましいものがありましたが、あまりに高額でまさに高根の花でした。このように言うとハード面でのマイナスイメージが強調されすぎてしまいますが、図書館のサービス内容に関してはその後大きく前進したと思います。

平成16年に起きた中越地震をきっかけに災害地支援を目的に「災害図書コーナー」が設置され、災害看護の基盤づくりが始まりました。その後も「闘病記コーナー」など重点整備図書コーナーを設けて、ある特定のテーマに焦点を当てた蔵書整備を進めるようにしました。学習支援に関しては、PBL^(※)授業に応じた学習参考書の充実が図られ、学生の図書館利用が徐々に増えていきました。

平成18年には大学院が設置され、今まで以上に研究支援体制の充実が望まれました。看護学の分野でも次々と新しい雑誌が刊行されてきていますが、購読料は年々じりじりと上がってきます。限られた予算の枠内

での運営のため、大ナタをふるって外国雑誌をはじめ多くの雑誌の購読中止を決断しました。しかしその頃から、タイトルを看護関連分野に絞った電子ジャーナルのパッケージ版が比較的廉価で売り出されるようになり、ようやくわが図書館でも導入できるようになりました。一方、



情報は受けるだけではなく発信することも必要であり、本学でもなんとか機関リポジトリを立ち上げることができないかと思うようになりました。多くの困難はありましたが、関係者の協力を得て平成22年に本学の機関リポジトリ「にこナース」を開設することができました。また念願の大学紀要も電子版として創刊し、一応の枠づくりはできたものと思います。今後はこれらの内容の充実を図るのみです。また昨年度からは、学生の図書館利用促進に向けた新たな取り組みである「図書館のちからプロジェクト」も動き出し、徐々に効果が現れてきています。

本学のエントランスホールや廊下のわきに置かれたテーブルを囲み、参考書やノートパソコンを見ながら学生たちがグループ学習をやっていきます。このような学習形態は看護教育の常態です。この空間を図書館と合体させれば、そのままラーニングコモンズです。テーブルのわきを通る通行人や周囲の騒音にもめげずに、仲間同士で討論し、発表の準備をしている学生たちの姿は本当に健気で、かつ頼もしくさえ見えます。恵まれない環境で努力している学生たちに、より良いコモンを提供できたらと思います。知の形態が印刷物のみでなくなってきた現代、看護教育にこそ新しい図書館が必要であり、その様な方向でますます本学図書館が機能を充実させていくことを期待しています。



※PBL: Problem Based Learning

学生に提示されたシナリオ(事例)から学習課題を見出し、小グループで取り組む問題解決型授業

災害看護・地震関係資料コーナーをご活用ください

新潟県では、2004年中越地震、2007年中越沖地震といった震災や、2004年7月新潟・福島豪雨、2011年7月新潟・福島豪雨といった水害をはじめとする自然災害に見舞われました。災害発生直後から看護職は救命に尽力し、また二次的健康被害を最小限にする支援を行います。そして看護職の支援は、復興期まで途切れることなく続いていきます。当館においても中越地震直後より、特設コーナーを設置しております。

このコーナーには中越地震、中越沖地震といった新潟県で発生した地震に関する詳細な資料はもちろんのこと、災害看護に関する多くの書籍が陳列されています。『7.13新潟豪雨災害及び中越大震災における新潟県の保健師活動記録』や『新潟県中越沖地震における保健師活動記録誌』には、震災直後の震災の被害状況と被災された住民の一刻を争う生命の確保や少しでも安全・安楽な支援を行った保健師の活動状況が克明に記されています。

新潟県内で発生した地震の後に皆さんの記憶にあるのは、2011年3月11日に発生した東日本大震災ではないでしょうか。



東日本大震災では、大津波が発生しました。また、地震に伴い原子力発電所事故が発生し放射能の危機にも見舞われました。地震・津波・原発事故による未曾有の大災害・大事故に対して多くの看護職が尽力しました。その看護職の活動報告書が『ナース発 東日本大震災レポート』です。この書籍では「被災地の看護職はそのときどう動いたか」「災害急性期の医療支援-DMATの活動」の実際、「看護協会、行政、学会、大学、各種団体、個人の支援活動」の実際、「避難所で暮らす地域住民への医療提供と健康維持支援」「被災地で暮らす住民への支援活動」「放

射線被ばくに対する医療支援」「他県に避難されてきた住民・患者への支援」「計画停電の影響」「救援者のこころのケア」という章にわかれて看護職の活動内容について詳細に書かれています。また、『大震災のなかで私たちは何をすべきか』という書籍では、東日本大震災の現場で活動を続けた医師やボランティアをはじめ、作家や学者ら33名が震災の意味、復興の形について述べています。この33名のなかには、看護師である川島みどり氏の手記も寄せられています。

災害は起こってほしくありませんが、いつ遭遇するかわかりません。この4月にも熊本地震が発生し、現在も復興にむけた支援が行われております。

今回ご紹介した書籍はほんの一部です。1人でも多くの皆さんにこのコーナーをご活用いただき、自然災害の状況を知る機会や災害発生後から復興期の看護の展開ならびに災害への備えを知る機会となっていればと願っております。また、当館では新潟県における災害看護資料の収集に努めております。震災に関する資料等がございましたら、是非当館にご寄贈くださいますよう、お願い申し上げます。

地域看護学 助教 野口 裕子



階段横に特設コーナーがあります。是非ご活用ください。

災害看護・地震関係資料コーナー



寄贈図書 (平成27年12月～平成28年6月)

下記の著書を寄贈いただきました。

敬称略・受入日順

	寄贈者	書名	出版年	請求記号
学	深谷裕	触法精神障害者をめぐる実証的考察 責任主体としての家族	2015	498.99-F72
外	杉田収	ふりむけば40年 私の透析人生	2016	494.93-Su46

このほか、本学大学院を平成27年度に修了した7名より修士論文を寄贈いただきました。



ご寄贈ありがとうございました。

人事往来



新規採用図書館職員 北島 哲

学生さんたちが夜遅くまで勉強している姿や、看護に関するさまざまな専門書やジャーナルの多さに刺激を受けながら、勤務をしています。教員や学生の方々の研究や勉強に、少しでもお役に立つことができれば幸いです。

新規採用図書館職員 笹川 幸男

4月から図書館でお世話になってます。毎日新鮮な気持ちで取組んでいますが、まだまだ不慣れであり、一日でも早く看護大学皆さんのお役に立てればと頑張っているところです。よろしくをお願いします。

退職図書館職員 難波 秀道

5年間勤務をさせていただきました。皆様方の温かいご厚情を賜り、大変ありがとうございました。おかげ様でいろいろな分野の本を借りて読むことができ感謝しております。皆様のご活躍を心よりお祈りしております。

退職図書館職員 太田 則子

3月末で契約期間満了に付き退職致しました。仲間にも恵まれ気持ち良く勤めさせて頂きました。春夏秋冬の妙高山を眺め、学生さんにごんばれと心の中で応援しながらのあつという間の5年間でした。大変お世話になりました。皆様のご活躍を祈念しております。



図書館だよりが新しくなりました！

名称が「NCNL 図書館だより」から「新潟県立看護大学図書館 Library Newsletter」と変更になりました。また、デザインも新しくしました。ご意見・ご感想をお寄せください！

新潟県立看護大学図書館 Library Newsletter

第39号(平成28年7月発行)

編集：新潟県立看護大学 図書委員会

〒943-0147 上越市新南町240番地

URL：http://lib.niigata-cn.ac.jp/

発行：新潟県立看護大学図書館

TEL：025-526-1169

E-mail：tosyo@niigata-cn.ac.jp